

阪神・淡路大震災記念 「人と防災未来センター」

吉村美保
YOSHIMURA Miho
東京大学生産技術研究所

宮城県沖地震，東海地震，東南海・南海地震…今世紀前半にはいくつかの巨大地震の発生が危険視されている。「体感できる土木ミュージアム」の第2回は，1995年1月17日に起こった阪神・淡路大震災の経験を神戸から日本全国へ，そして世界へ発信している，阪神・淡路大地震記念「人と防災未来センター」を紹介する。

背景と概要

兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）発生から7年を迎えた2002年4月27日，兵庫県神戸市中央区のHAT神戸に，阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」がオープンした。センターの正式名称は7612件もの公募の中から選ばれた。この名称には，阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世に継承し，「人のいのちの大切さや共に生きることの喜び」と「防災」の重要性に関する情報を未来へ発信し，積極的にその活動を支援するという決意が込められている。HAT神戸の中でも一際目立つ，ガラスの立方体。それがセンターの「防災未来館」である。強固な結晶体のようなガラス張りの建物は，防災の情報を包み隠さず発信し，自ら成長していく神戸の姿を象徴している。

阪神・淡路大震災の経験を伝える

訪問者はまず，防災未来館4階の「1.17シアター」で，兵庫県南部地震が発生した1月17日午前5時46分に何が起こったのかを目のあたりにする。最新の特撮技法やCGを駆使してリアルに再現された，住宅やオフィスの倒壊・阪神高速道路3号神戸線の崩壊・火災発生の様子が，「その時」の真実を物語る。衝撃的な映像に半ば呆然としてシアターを出ると，そこには，震災直後のまちがジオラマで再現されている。傾くコンクリートマンションや木造住宅などが原寸大で再現されており，先ほど見た映像を体感させる。次に訪れ

るのは，「大震災ホール」である。ここでは，一人の被災者としての視点にたつて，地震発生直後から復旧・復興していく過程を振り返る。映像は，当時実際に報道された映像で構成されている。被災した神戸のまち・避難所になった体育館や教室に寝泊りするたくさんの被災者たち・お葬式の模様・建設された仮設住宅や災害復興住宅など，数々の映像は，震災により受けた神戸の傷の深さを改めて認識させる。

防災未来館3階に下りて行くとそこは，実物資料・データに基づいて大震災の状況と教訓を伝えるコーナーである。「震災からの復興をたどる」コーナーでは，五つのテーブルを回りながら，当時の人々の暮らしやまちの姿を学ぶことができる。「震災の記憶をのこす」コーナーでは，被災者から提供してもらった品々（写真500点，手記260点，実物資料70点）が展示されている。「バーコードナビゲーションシステム（B-navi）」を借りると，さらに詳細な解説や体験談を知ることができ，帰る時には，必要な情報を印刷して持ち帰ることができる。2階には，最新の情報を伝える防災情報コンテナ，関連資料を収集・保存している資料室がある。

センターを支えるボランティア

センターの運営を支えているのは，展示・語学・語り部ボランティアとして活躍する140人の市民である。その中でも，展示された品々により一層のリアルさを与えているのが，語り部ボランティアの存在である。現在約20の方が



外観
(手前：防災未来館，右奥：ひと未来館)



ジオラマで再現された被災状況



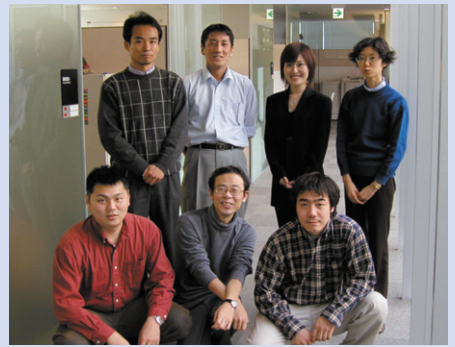
大震災ホール



震災からの復興をたどるコーナー



防災マップ作り(左)とペットボトル液状化実験(右)



専任研究員の方々(2列目右から2人目が柄谷研究員)

活躍されており、今回は、二人にお話を伺うことができた。谷川三郎さんは土木出身で、震災当時、芦屋市役所に勤務しており災害対応と復興まちづくりに尽力されたという。退職後もやり残したことがあると感じ、現在、センターを訪れる来館者に当時の経験を語り継いでおられる。千田徹夫さんは、震災の記憶を短歌によって表現している。そのいくつかをここで紹介させていただく(右囲み)。過酷な状況においても、力強く生きていこうとする人々の情景が、5・7・5・7・7という簡潔な表現によって、より一層胸に迫る。

地域防災教育の拠点として

団体の入館者の1/3は、小・中・高校生である。修学旅行や総合学習の時間を利用して、遠方から訪れるケースも多い。安全で安心なまちづくりを子どもの頃から意識してもらうため、センターには子どもたちを対象にした展示も多い。昨年8月には、自由研究に役立ててもらおうと、夏休み子ども防災ワークショップを主催した。応募で集まった子どもたちは、センターの職員・兵庫県立舞子高校環境防災科の生徒とともに、まちの防災マップ作り・ペットボトルを用いた液状化実験などを体験した。

将来の防災を担う人材の育成

センターの重要な機能として、人材育成システムがある。国や地方自治体の防災職員を対象とした災害対策専門研修では、大震災の経験と教訓を踏まえた災害対応能力の向上を図る。また、大規模災害時に災害対策本部に対して総合的かつ実践的な助言等ができる専門家として、専任研究員の育成にも力を入れている。専任研究員の一人である柄谷友香さんに、今の想いをお話していただいた。

「このセンターの多機能を通じて、阪神・淡路大震災から得られた教訓を広く、持続的に発信し、国内外の災害による被害の軽減に貢献したいと考えています。ある日、来館された被災者の方から、『あなたにとってここにある展示物は単なるモノにすぎないかもしれないけれど、被災者にとつ

短歌でつづる大震災(千田徹夫さん作)

- ・ 大き字に子がこの下に未だ居りと 書き残しあり倒壊の家
- ・ 飲用の僅かの水を惜しみなく 傷者洗えとひとの下さる
- ・ まんまろに月のおおきく昇り来ぬ 潰れて低くなりにし街に
- ・ 新しき家にトラック止り居り ひと家族また町に帰り来
- ・ かの日より六年経ざり窓いっぱい ゆたかに灯す神戸いとおし

てはさまざまな思い出のつまった大切なモノなのです』と言われ、心打たれました。

今後も、市民の方々と共につくる『地域の commons』としてのセンターを目指し、来館者一人一人の声に耳を傾けながら、できるだけ同じ目線に立って対応できる防災研究者であり続けたいと考えています。」

2003年4月26日、いのちの尊さと共に生きることの素晴らしさをテーマに「ひと未来館」が新たにオープンしました。震災を語り継ぎたいという思いの結晶、それが阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」なのだと思います。皆様もぜひ、神戸からのメッセージに耳を傾けてみてください。

施設の案内

所在地 : 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
 電話番号 : 078-262-5050
 開館時間 : 9:30~17:30 (入館は16:30まで) ただし金・土は19:00
 休館日 : 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、12月31日と元旦
 入館料 : 大人500円/高校・大学生400円/小・中学生250円(防災未来館のみの場合)
 他の料金、休館日は下記HPでご確認ください。
 HP : <http://www/dri.ne.jp/>

